

越後駒ヶ岳-中ノ岳縦走

M4 荒川 晶

【参加メンバー】

M4 荒川・M3 田中・C1 上村

【コースタイム】

10/11(Sat) : 快晴

越後三山森林公園 05:40-十二平 06:30-40-クシガハナ 09:10-40-越後駒ヶ岳 10:30-11:20-中ノ岳 14:30

10/12(Sun) : 快晴

中ノ岳 08:30-日向山 10:00-十字峡登山口 11:50-12:00-野中バス停 13:20

※当初は3日間で八海山-中ノ岳-越後駒縦走予定だったものを台風接近に伴い2日間に短縮した。

結果的に快晴の下で行動できた。

【概要】

先日の飯豊山山行に続いて、長年の課題だった越後三山縦走を M4 の秋に企画した。しかし、あいにく予定していた日程で台風が接近。日々刻々と変化する天気図と睨みあいながら、最終的に2泊3日だった行程を1泊2日へと短縮し、2日目の午前中に下山できるプランへと変更した。

接近予定だった台風は予想されていたより進行が遅く、結果的には一帯は高気圧に覆われ、むしろこれ以上ないほど安定した天候の下で山行を行うことが出来た。核心部としていた中ノ岳-八海山のルートを省略してしまったのが心残りではあったが、これは遠い将来への課題としておこう。

【本文】

<1日目>

本来は朝に上越線の電車に揺られる予定だったのだが、前述の理由により早めに下山するため、14年度は特に回数の増えた前夜レンタカーで都内出発、翌日朝から行動開始というパターンで山行開始。睡眠時間があまり確保できずややしんどい面はあるのだが、3人とも山慣れたメンバーなので心配なし、ということ。

越後駒ヶ岳自体は枝折峠からのルートが良く整備されているようで、千ノ沢ルートを選ぶ人はややマニアックな人が多い印象。駐車場ではオツルミズ沢を詰めるという5人組と遭遇、他にも途上で3.4人の人と遭遇したが、いずれも単独行の人だった。最初の1時間程度は、川沿いの廃道となった道をてくてくと歩く印象。十二平で一服して、ここから本格的な登り開始。いつも高度差を勘案せずプランを立てるのが私の悪い癖だが、ここも実は山頂まで1500m以上のアップがあり相当ハードなルート。C1 上村と、飯豊連峰のダイグラ尾根と何処となく似てるねと。実習が忙しかった様子の M3 田中はややしんどそうだったがそれでも遅れずについて来てくれた。それでも一気に標高を詰めてしまうので、予定よりやや早いペースでクシガハナまでやってきた。天候に関しては雨が降らなければいいや位の気持ちで

いたのだが、蓋を開けてみると雲ひとつない快晴だった。西面の八海山が秋の斜光線を浴びて特に美しく、思わず見入ってしまう。他にも越後駒ヶ岳～中ノ岳の縦走路が一望出来て素晴らしい場所であった。

しばし休憩の後に、越後駒ヶ岳山頂を目指す。山頂直前までは人が少ないのだが、枝折峠からの登山道との合流点からは日帰り登山の人々で大賑わい。運良く団体客が出発した直後に山頂に着いたのでスペースを確保出来たのだが、山頂は出入りする人々で大賑わいであった。



クシガハナへはヤセ尾根を、木の根に掴まるようにしながら登って行く。



クシガハナから八海山。秋の日差しを浴びて美しく輝く。



逆光気味だが、越後駒～中ノ岳の縦走路。後ほどここを歩く。



標高差 1500m 近くあった越後駒ヶ岳も、もう目と鼻の先。思いのほか良いペースで登って来れた。

山頂からはクシガハナからは見えなかった銀山平温泉が遠くに広がり、東側には荒沢岳が大きく、北面には浅草岳、守門岳も遠望され、新潟らしい山並みが広がる。1 時間ほど景色を楽しみつつも、中ノ岳避難小屋の混雑が気になったので出発。

中ノ岳への縦走路は一見楽そうなのだが、所々難所があるとの情報があり侮れない。実際歩いてみると、確かに所々小さな岩場があり、快適な縦走路とはいえないが、かといって難所扱いするほどでもない。シーズンにはやや遅かったのだが、それでも所々に残された紅葉を楽しみながら歩く。最後の 200m 程の登りがきつく、日差しも相まって 10 月というシーズンながら暑いくらいの陽気だった。ここも、コースタイムの 3/4 程度の時間で縦走してしまった。

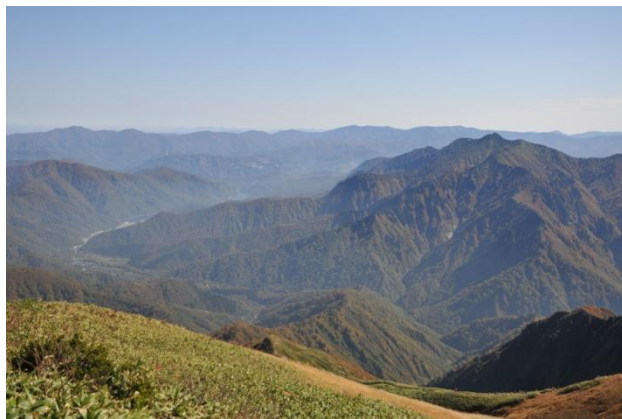
中ノ岳避難小屋は 50 人が収容できると云う大きめの小屋。もっとも 50 人収容すると相当カツカツになりそうな大きさではあったが。そろそろシーズンオフであり、涸れていることも懸念して都内から水

を持参してきたが、設置されたポリタンクはまだ水を蓄えて飲むことも出来そうであった。今夜の宿泊人数は 20 人ほどで、比較的余裕を持って過ごすことが出来た。

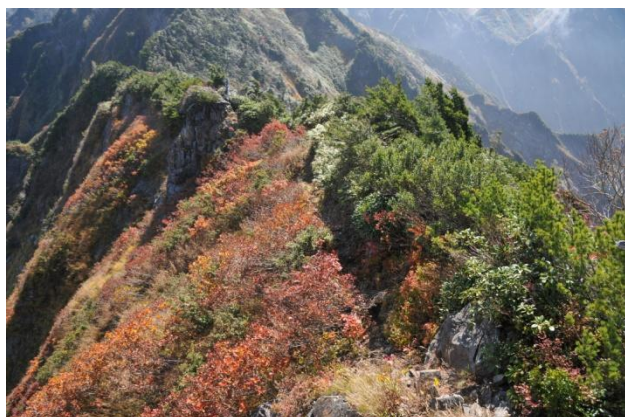
日没時には夕景を眺めに中ノ岳の山頂へ。風があり寒かったが、360 度遮るもののない展望は特筆すべき素晴らしさであった。谷川岳や苗場山など、今年訪れた上越国境の山々が一望出来たのもまた感慨深い。



越後駒ヶ岳山頂で記念写真を撮ってもらう。惜しくも逆光。



荒沢岳と、左側の谷間に銀山平。機会があれば再訪したい。



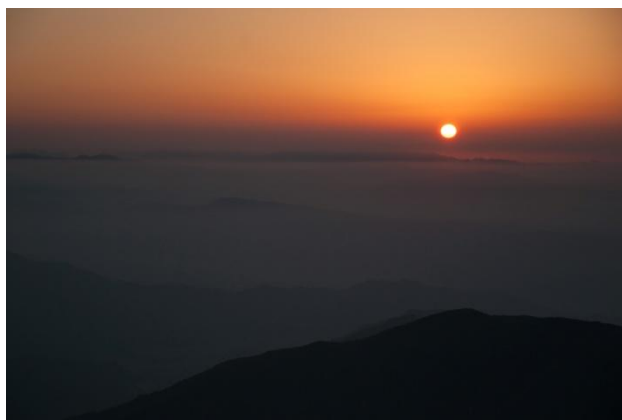
越後駒ヶ岳～中ノ岳の縦走路。所々難路があり歩きにくい、コースタイムほど時間は掛からない。



西日を浴びる越後駒ヶ岳。中ノ岳の避難小屋から遠望する。



夕暮れ時の山頂。天候は良かったが若干風が強く、思ったよりは寒かった。



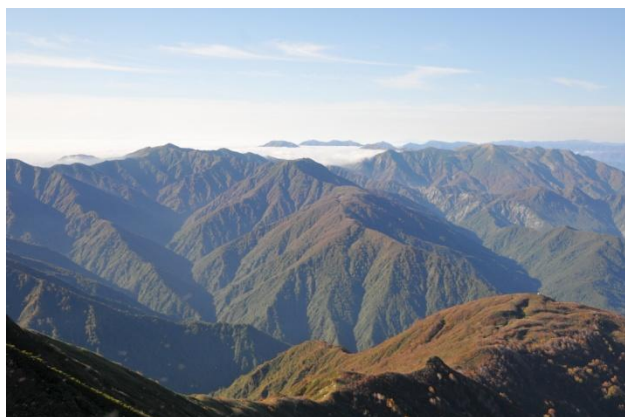
日没を眺める。方角的には火打、妙高方面の山に沈むことになるようだ。

<2日目>

この日も快晴。殆どの人は、越後駒ヶ岳から銀山平、あるいは八海山への縦走へと向けて6時前には出発してしまった。我々もその気になれば八海山まで行けたと思うのだが、計画書で提出したとおり、本山下山する方針を守ることにした。

初日で行程の大半が終わってしまい、後は下山するだけという大変楽な行程なので、8時頃までのんびりと景色を楽しみながら過ごす。(もっとも楽しんでいたのは私だけで、後輩2人は小屋に籠っていたが)次にこの山域に、あるいは長期の登山に来れるのはいつだろうかと思いを巡らせながら山々を見ていると色々な感慨が頭の中を巡って飽きることがない。

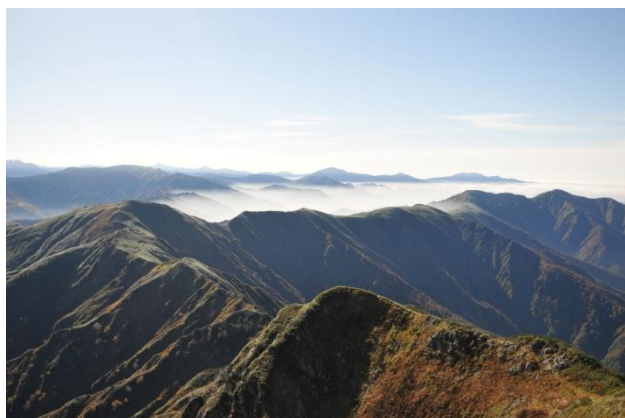
8時半ごろ、誰もいなくなった小屋を出発。そういえば日本の登山には、特定の場所に沈黙して何日かを過ごすという文化が無いのが最近不思議に思えてきた。何も無理をして毎日歩を進めなくてもいいものなのにと時々思う。それはさておいて下山路も思っていたより歩きやすく、コースタイムの2/3程度の時間であっさりと降りてゆく。M3 田中とも話していたが、地図や先人の山行記録を見て大方予想はつくものの、やはり未知の難所があり時間が掛かる可能性が否定できない以上、ある程度は地図による記載時間を参考に計画を立てざるを得ないのかなと思う。



朝は西側の山々に良く陽が回る。中央左寄りに下津川山、奥が巻機山。奥には谷川連峰を遠望。



越後駒ヶ岳にも東から陽が当たる。夕方とは丁度かげひなたが逆転している。



兎岳、丹後山方面の縦走路。こちらの中々快適そうな縦走路である。利根川源流の大水上山もこの近くに。



中ノ岳避難小屋は比較的頑丈な作り。良く手入れもされていた。

五合目までは比較的アップダウンの少ないルート歩く。中ノ岳の展望を楽しめるのは五合目付近の日向山が最後。しっかりと目に焼き付けて以降の急坂を下る。それでも初日の十二平からのルートよりはかなり歩きやすく、メインルートとしてよく人の手が入っているなという印象はあった。三合目から二合目までの間では少しばかり岩場があり、気を抜かぬよう慎重に通過。この辺りで十字峡の展望が素晴らしかった。ここでは三国(さぐり)川が3本の沢に分岐しており、それぞれが互いに90度近い角度で分岐しているのでそのような地名になったようだ。2合目付近の水場は10月でも健在で流量も豊富であった。下山後にも飲むだろうと少しばかり水汲み。最後の急坂を下り終えて、道路脇のコンクリート壁に付けられた階段を降りると十字峡の駐車場に到着。十字峡登山センターという建物もあり、ここでは1泊¥1,000で仮眠も出来るようだ。

ここから野中のバス停までは1時間30分ほどの車道歩き。当初予定していたバスより1本早いバスに乗れそうだったので、ゆっくりと歩きたがる後輩たちを少々急かしながら、三国川ダムのダム湖沿いに歩く。十字峡登山口付近には小さな公園があるようで、時折観光客らしい人たちの車とすれ違う。やや急ぎ足でバス発車の10分ほど前に到着。ここから六日町駅へと戻り、浦佐駅からタクシーでレンタカーを回収して帰路に着いた。日中は夕刻まで晴れ間が広がり、翌日の台風の接近など予想できないような好天に恵まれた2日間だった。



五合目付近から中ノ岳を振り返る。展望があったのはここが最後。



2合目付近の岩場。この付近から十字峡も見下ろすことが出来た。



道端の斜面に付けられた階段を下って十字峡に到着。